

発行人 / 学園町自治会会長・荻野晶子
企画編集 / 学園町自治会広報委員会
編集長 / 浜名 純
投稿・連絡先 / 学園町1丁目14番地31号
電話 / 090-6005-7887

学園町 かわら版

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行

110
号

毎月の第1・第3・第5月曜日は
学園町自治会の資源物回収の日。
自治会の収益となりますので、
ぜひご協力ください。

日本作品では初めて 学生アカデミー賞・アニメーション部門で 金森慧さん（一丁目）が「銀賞」受賞

学園町一丁目在住のCGアーティスト・金森慧さん（23）が制作したCGアニメーション『Origami』が、今年10月14日にロンドンで開催された「学生アカデミー賞」のアニメーション部門で見事「銀賞」に輝きました。今年で51回目の「学生アカデミー賞」は、米国アカデミーが主催する権威ある賞で、過去の受賞者にはロバート・ゼメキス（『バック・トゥ・ザ・フューチャー』）、ピート・ドクター（『モンスターズ・インク』）などの監督たちが名を連ねます。日本の作品が受賞するのは初めての快挙で、受賞作品はアカデミー賞の短編映画部門の選考対象となります。金森さんは自由学園に初等部から高等科（現高等部）まで在籍していました。金森さんに制作の苦労や受賞の感慨、今後の抱負、そして学園町と自由学園での生活についてお聞きしました。

——『Origami』は、正方形の折紙がいろいろな形をした生物に折られていく過程を描いたものです。これまでコンピュータグラフィック（CG）アニメーションで折紙を折ることを表現するのは技術的に無理だと言われていました。それをどうやって克服したのでしょうか。

金森 日本の折紙文化をちゃんと表現するということにこだわりました。これまで海外のクリエイターが折紙をテーマに映像を作ったことがあったのですが、実際の紙では折れないものばかりでした。例えば、折る前と後の形状をすり替えて折っているかのように見せたりして描写していました。そう



ではなく、ちゃんと正方形の紙からハサミを使わずに折ることができる形だけを使って映像を作りたいという思いで作りました。折れば厚みが増します。さらに折ればまた厚みが増します。数学的に難しい課題です。このため、3分間の作品を作るのに1年以上かかりました。この映像を作っている間、パソコンと折紙のどっちを長く触っていたか分からないくらい、常に本物の紙の動きを見ながら、それと同じになるように試行錯誤しました。作品には鶴や蛙など多くの日本の伝承折紙が登場します。一方、メインキャラクターは実際に折ってオリジナルでデザインをしました。

——3分間の短編にどのようなコンセプトが込められているのでしょうか。

金森 日本では子どもの遊びとして折紙が定着していますが、世界の人に日本の文化として折紙の美しさを発信することを目指しました。何かを作るということは、元々の素材に手を入れるというある意味、破壊的な工程が入ります。例えば「切る」という作業もそうです。しかし、折紙は変形させるだけで、最初から最後まで完結するのが特徴です。形が出来上がっても、それを広げれば元の四角い紙に戻ります。折紙にしかない特徴です。土から生まれて土に還る「生命」と重なります。そんなコンセプトを込めました。

——受賞した時の気持ちを聞かせください。

金森 折紙は私の創作活動の原点で、とても思い入れがありますし、日本文化をテーマにした作品が世界で評価さ

れたことはとてもうれしいことです。過去の受賞作を観ていると、ストーリーを大事にしている作品が多く、僕の作品はストーリーを重視しているものではないので、受賞が決まったのはすごくびっくりしました。今年9月、真田広之さんの「本物の日本文化の表現」にこだわった『SHOGUN将軍』という作品がエミー賞を受賞したことがとても印象に残っています。僕の作品も本物の折紙文化を表現しようとしたその姿勢を評価してくれたのかなと思っています。

周りからおめでとうと言われるのですが、トロフィーももらった瞬間から悔しさがこみあげてきたのも事実です。「金」ではなく「銀」だった口惜しさです。でも、それはそれでよかったかなと今は思います。まだまだやることがある。「銀」で調子に乗るなよ、と言われていたような気がしています。

——折紙が創作の原点というのはどういうことでしょうか。CG制作に興味をもつようになったきっかけなどを聞かせてください。

金森 小学校1年の時から折紙に親しむようになりました。その頃、ハリポッターを観て映画が好きになりました。それから海外の映画業界に関わりたという思いが強くなりました。また、映画のCG制作に興味を抱き、高校2年の頃に独学でCGを始めました。折紙とCGの数学的な共通性に惹かれたんですね。それを専門的に学べる大学を探してデジタルハリウッド大学に進学しました。（次ページに続く）

——幼い頃から学園町で育ち、自由学園で学びました。それが制作や自分の進路に影響を与えたということはありませんか。

金森 4歳上の姉が初等部に入るので学園町に引っ越してきました。僕は初等部から高等科まで、自由学園の自然豊かな環境で学びました。作品を作る時、誰もが気づかないような細部にまでこだわりの持つようにしていますが、そういう姿勢や、作品を作る上での感性はすべて自由学園の学びから来ているように感じます。自分のやりたいことをやらせてくれたことはとても大きかったですね。

小学校1年の時から「たんぽぽ」というトイプードルを飼っていて、僕が犬の散歩をしていました。近隣の方には、『タンポポ君のお兄ちゃん』として知られていて、よくおしゃべりをしていました。この町で散歩し暮らしていたことも大きな影響を与えています。豊かな環境で学んだと言いましたが、それはこの学園町の町並みも含んでのことです。

——今春、卒業しました。今後の抱負などについてお聞かせください。

金森 自分で作品を作って、どうやって人の心を動かそうかということを考えるようになりました。海外での活動を視野に準備を進めています。また、Rock In Japan Fes 2024のタイトル映像を担当するなど、CGアーティスト、映

像作家としての道を歩み始めました。映画やドラマのオープニングの映像、連続テレビ小説や大河ドラマのオープニングの映像などを目指して頑張っていきたいです。

花だより³⁹

クリスマスリースに
正月飾り
季節感のある生活を



立川まり

今年は11月中旬になってやっと寒さを感じるようになりました。それでも暖かい日もあったりして、紅葉も木によって色づくタイミングが違うようです。

我が家では、毎年、寒くなり始めると花壇にチューリップの球根とパンジーなどの花を植えます。チューリップの球根は少し寒くなつてからということ様子を見をしているうちに、今年は植えるのが少し遅くなつてしまいました。パンジーなども市場に出てくるのが遅かったような気がします。冬は例年並みに寒いということなのでチューリップは耐寒しきれいな花を咲かせてくれるでしょう。

花市場は11月下旬にモミが入荷して、ヒムロ杉、ブルーバード、ブルーアイス、ヒバナなど沢山の針

葉樹で溢れます。そして12月初旬に松市、中旬に千両市があると一気にお正月の雰囲気が変わります。

それでもクリスマスの装飾、プレゼントなどに合う花、赤いものや実物は出ていて気分を盛り上げてくれます。



「かけこみハウス」の現状と課題について

五小で実施委員会開催

南中学校地区かけこみハウス実施委員会が10月10日、第五小学校で開催されました。東久留米市役所、学校関係(校長・PTA)、地域団体(自治会・青少協)で、学園町自治会からも2名が参加、かけこみハウスについての説明や、令和5年度報告、情報交換などがありました。

かけこみハウス事業は平成10年度から子供たちをさまざまな危険から守るべく避難場所確保のために中央中学校地区を皮切りに始めました。その後各地に広がり防

今年はずっと、チューリップなど11月中旬から出てきていましたが、それらの初春の花も12月下旬にはたくさん出てきます。

毎回書いている気がしますが、このところの気候の変動で段々季節感が分からなくなってきました。また価格もじわじわと高騰していて、気が付けば倍近い価格になっている花もあります。それでもクリスマスリースやお正月飾り、しめ縄などを生活に取り入れて、少しでも季節感ある生活を過ごせればと思います。

(フローラライフ) 立川まり
FAX 042-423-8646
E-mail support@flife.jp

犯事業として発展、現在は市内公立20校に在籍する小中学校生を対象に7ブロックに分けて運営しています。協力者総数は1548家庭で、そのうち南中地区は204家庭です。

①過去10年かけこみ児童数実績はごく僅か(数人程度)で被害にあつた案件がない。これをどう判断するかが難しい。つまり宣伝不足なのか安全度が高いのか分からない。駆け込んだ児童の中にはトイレを貸して欲しいなど本来の主旨とは違うことで訪ねてきた

例もある。しかし、これはこれだけで捨てがたい。

②ここ数年小中学校の児童数が増加傾向にある。第五小学校は826人25学級で教室不足となっている。一方PTA加入数は268名で漸減。第五小学校裏側に空き地があり住宅開発(40×50軒ぐらいは建ちそう)が行われるため、しばらくはこの傾向はおさまらない。教育、ケア面両面で難易度が増加している。

③一方で、同事業の協力家庭は漸減傾向にある。高齢化、転出、卒業数を新規協力者が上回ることができていない。

④警察官のPTA役員から、昨今の青少年への異常、変質行動等を考えると協力者の「身体検査」が必要ではないか、という発言があった。登録時に自署を求め、事故防止に備える方法もある。

⑤協力家庭ではステッカーを貼り出しているが、そのデザインが古いので変更を検討したい。

——といったさまざまな報告や情報交換がありました。そして、この事業そのものには大きな変化は見られなかったが、それを取り巻く環境が変化していることが鮮明になりました。「何もないことが良いサイン」なのか、「実は水面下でいろいろある」のかははっきりしませんが、この事業が犯罪防止の一端を担っているのは確かです。

自由学園と学園町の次の100年に向けて DOCOMOMOによる選定記念の講演会開催

自由学園のキャンパスと学園町の建物、DOCOMOMO Japanにより、歴史的建築物に追加選定されたのを記念した「歴史的建築物選定を祝う！ 学園町と自由学園の未来を見据えた特別イベント」が10月19日（土）、自由学園記念講堂で開催されました。自由学園と学園町自治会が主催、DOCOMOMO Japanが共催したもので、講演や表彰式、対談イベントなどが行われ、学園町内外から144名の方々が参加しました。歴史的建築物に追加選定されたのは、自由学園の羽仁両先生記念

図書館、幼児生活団をはじめ、学園町の建築物（田中富士雄邸、小宮一郎邸、芦沢邸、羽仁峰生邸）。世界的建築家フランク・ロイド・ライトの弟子である遠藤新、遠藤楽、遠藤陶が手掛けた建築群です。第一部では、玄田悠大氏が「まち並み継承に関する社会的潮流。遠藤建築と自由学園・学園町の変遷の歴史と価値」と題して講演。玄田氏は、DOCOMOMO Japan事務局長で、近代の都市・建築に関する研究・活動を通じてその環境継承に取り組んでおり、学園町自治会のアドバイザーも務めています。



す。玄田氏は、この町が羽仁夫妻の教育思想や遠藤新の建築思想を共有し、独自性のある地域環境を一体的に構築してきた稀有な事例であること。来年には分譲開始から100周年を迎える学園町の移り変わり、一世紀にわたって豊かな環境とコミュニティを維持し継承してきたことの素晴らしい話でした。次いで、選定された住宅の居住者に

DOCOMOMO Japan 代表理事の鰺坂徹氏と来日中のDOCOMOMO International代表のAnaさんからプレートが贈呈されました。鰺坂氏は「建物は改修しながら使い続けるのが大切です。学園町はともいい状況だと思います。緑の景観を維持しながら将来に継承して欲しい」とあいさつ。プレートを贈呈された羽仁峰生さんは「南沢は本当にいいところです。これだけの緑と人情のある町はなかなかありません。90年を生きてきましたが、これほどうれしいことは初めてです。ありがとうございます」と贈呈された喜びを表しました。

第2部は、「これからの自由学園と学園町」次の100年に向けて」と題する記念対談。自由学園の更科幸一学園長、学園町自治会の荻野晶子会長と玄田氏が荒昌史氏をファシリテーターに、学園町と自由学園が「学びたい学校」「住みたい街」としてどのように発展していくのか、その未来について議論しました。荒氏は、自由学園の非常勤講師を務めるとともに、ネイバーフッドデザイン事業を通じて、まちや集合住宅の人々のつながりをつくり、都市の社会環境問題の解決に取り組んでいます。更科学園長は「現在の自由学園の人たちは学園町の背景やどういう変遷してきたのかを知る機会が減っています。学園町のことを知ることで、より学園町とのつながりを意識しながら生活できるで

しょう。また、羽仁両先生が亡くなってから自由学園と学園町が離れてきたように感じますが、自由学園の責任は何かを考えていきたいと話しました。これに対し、「講演を聞いて、先人が人情の育つような町を作ってくれたのだと改めて思いました。皆さんが協力し、町がきれいに保たれていますね。講演の中で『友の会』という言葉が出てきましたが、これは『婦人之友』の読者で作った組織。『婦人之友』は、羽仁もと子思想が凝縮されているもので、学園町には、今もその思想が残っていると云えるでしょう」と荻野会長。このあと第3部では自由学園内の選定建築の見学ツアーを実施しました。

イベントが終わったあと、荻野会長は「DOCOMOMO Japanに追加選定されたことで、改めて先人に感謝するとともに、その先人から引き継いだ宿題の重さを思い出します。次の豊かな100年に向けて力を尽くしたい」と語り、更科学園長は、「これからが大切ですね。羽仁両先生の思想をどのように実現するか、学園町の自由学園として考え実行していきたい」と抱負を述べてくれました。

ところで、Anaさんは「自由学園と学園町の建物と環境が私たちの将来に希望を与えます」と語り、自由学園のキャンパスを案内された際には、「このキャンパスで教えた」と語っていました。

「JIYU1123」に 「みどりのサークル」が出店

自由学園のキャンパス全体を使ったイベント「JIYU1123」が11月23日（土）に開催されました。学園町の住民有志でつくる「みどりのサークル」が「種の苗の交換会」を出張開催しました。「みどりのサークル」は、住民のみなさんと共に花と緑の美しいまちづくりを推進するための活動をしているサークルで、この活動に賛同してくれている町内の「雲雀園芸」も出店。さらに、自治会の篠宮勇さんによる採れたて野菜の朝市も開かれました。

ヒガンバナ、ノボタン、ユズ、キンカン、ヘレニウム、カツシア、ヘレニウム、オキザリスなどさまざまな種類の草花が並び、行きかう人の目を惹きつけてくれました。昼前にはほとんどの草花が売れるなど大好評で、ダイコンやムラサキダイコン、ホウレンソウなどの野菜も完売しました。

この日は、ちよっぴり風が強かったものの秋晴れの好天気恵まれ、自由学園の卒業生、保護者、学園町はじめとする近隣の住民、受験希望者など4000人の人が足を運んでくれました。

今回は、共学化して初めての文化祭「梨花祭」を開催。共学化前の女子部の「野の花祭」と男子部の「黎明祭」の頭文字を組み合わせたものです。



京都での見聞を東久留米市のまちづくりに生かそう

修学旅行の体験をもとに

南中学校3年生が発表会

「京都での見聞を東久留米市のまちづくりに生かそう」――南中学校（若澤直樹校長）では9月19日、21日まで3年生の奈良・京都修学旅行を実施しましたが、そこで体験した「京都市の魅力や課題」をもとに、生徒たちが事後学習として「東久留米市をよりよくするためのアイデア」を考えました。10月25日には、東久留米市役所や教育委員会、学園町自治会など外部の人たちを招いて、「我ら！HIGAKURU×FAMILY」京都の実情から見た東久留米の良さを導き出せ」と題する発表会を開催しました。

修学旅行では、生徒がいくつかの小さな班に分かれて行動しました。その班ごとにアイデアをまとめ、この日は5つの班が代表として発表しました。

「賑やかで活気がある」「歴史的景観」「観光客が多い」「積極的な看板設置」「伝統的な儀式」「伝統工芸品が京都の思い出を鮮明にしてくれる」など京都の魅力を挙げてくれました。課題としては「ゴミ箱が少ない」「観光客が多すぎて一向に進めない」「オーバートリズム」「建物の老朽化」「観光客によるポイ捨て」「騒音」などが指摘されました。

一方、東久留米市の魅力は、「豊かな生態系や自然と共存した街並み」「きれいな水」「ショッピングセンターが多い」「直売所がある」「新鮮な野菜が手に入る」「公園が多い」「団地が多く子育てがしやすい環境である」などが列挙され、「課題としては「空き家が多く、道が狭い」「町の整備が行き届いていない」「街灯が少ない」「財政状況が悪い」「バスのアクセスが不便」といった行政に耳の痛い項目も含めて列挙されました。

おしらせ

《自治会の資源物集団回収》

12/16 (月)・1/8 (月)・1/20 (月)
・アルミ / 新聞紙 / ダンボール / 雑誌・本 / 古紙 / 古着・布
・それぞれに分別して朝 8:30 までに出してください。
・古着・布は雨天時は出さないでください。
・自治会の収益となりますので、ぜひご協力ください。

《南部地域センター》

※各イベント問合せは南部地域センター（指定管理者（株）セイウン）TEL 042-451-2021
Mail higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp

★ [ヨガ教室関係 4 件]

①「美ヨーガ」
楽しくアンチエイジング！
・12月12日(日)・1月12日(日)・1月26日(日)・2月9日(日)
1部 10:00～2部 11:30～
・会場：1階集会室
・定員：各回 10 名
・参加費：700 円（当日払い）
・持ち物：ヨガマット・水分補給・動きやすい服装・厚手のバスタオル・汗拭きタオル
・講師：ヨガインストラクター AZUSA
②「シニアヨーガ」
・12月13日(金)・12月27日(金)・1月10日(金)・1月24日(金) 1部 10:00～2部 11:30～
・会場：2階和室
・定員：各回 6 名
・対象：65 歳以上 男性も大歓迎！
・参加費・持ち物・講師については、上記①と同じ
③頑張っているお父さんの「ヨガの男塾！」デスクワーカーの悩み「首・肩こり・腰痛」を解消しよう！
・12月13日(金)・12月20日(金)・1月10日(金)・1月17日(金)・1月31日(金)・2月7日(金) 19:00～20:00

・定員：15 名
・参加費：700 円（当日払い）
・会場：2階和室
・持ち物等：動きやすい服装・水分補給首にかけられる長さのタオル
・講師：ヨガインストラクター中村陽子
④「女性のためのヨガ」
・12月15日(日)・1月19日(日) 2月2日(日) 13:30～
・定員：11 名
・1階集会室
・参加費・持ち物・講師については、上記③と同じ

★ [ヨガ教室以外のイベント]

①「バクさんとうたおう！」
・12月22日(日)・1月26日(日)
開場 13:15 開演 13:30～
・定員 60 名・参加費 500 円
・持ち物 筆記用具
②「なんぶおしゃべりサロン」
・1月5日(日)・2月2日(日) 13:30～
・参加費 100 円・定員 10 名。
自由に話し合い、他の人の話も聞きましょう！ ザックパランおしゃべりで心のコリをほぐしましょう！どなたでもご自由に参加下さい。

★ [その他催し]

※お宝いっぱい！「まあぶるミニバザー」
地域の皆様よりご提供いただいた洋服・食器類・雑貨・書籍等をお手頃価格で販売しています。ぜひお越しください。
掘り出し物がきつとみつかるよ！
・12月24日(火)・1月28日(火) 13:30～15:00
・会場：南部地域センタービロティ
・問合せ：(社福) すぎのこ まあぶる TEL 042-473-5896

《自由学園》

※イベント詳細は自由学園ホームページに掲載しております。
※お問合せ先：自由学園広報室
TEL: 042-428-2122
e-mail: kh@jiyu.ac.jp
URL: <https://www.jiyu.ac.jp>

名付け、情報社会に必要不可欠である SNS を通して東久留米をアピールする。
・地産地消の取り組み。柳窪小麦を活用したチョコボールを作った駅で販売。
などの斬新でユニークな提案がありました。
最後に東久留米市産業政策課の井上卓振興企画係長が「この町に対する中学生の思いを知ることができました。自分たちの住む町をいい町にしていこうという熱意が伝わり、勇気をもらいました。素晴らしい提案で、町おこしの参考になりました」と述べました。

■ 幼児生活団幼稚園園庭開放

○日程：12月16日(月)、1月16日(木)、20日(月)、30日(木)、2月5日(水)
○時間：10:00～11:00
WEBにてお申し込みください。
詳細は幼稚園 HP からお願いします。
<https://www.jiyu.ac.jp/kindergarten/>

■ 自由学園こっこ広場 (0-2 歳向け)

0、1、2 才のお子さんとお母さん、お父さんのための子育て広場です。詳細はこっこ広場 HP からお願いします。
<http://www.jiyu.ac.jp/cocco/>

■ U12 こども広場～わくワクフェス！～

楽しいワークショップをご用意してお待ちしています！
○日時：12月14日(土) 9:00～12:00
○対象：0 才～小学校低学年のお子様のいるご家庭
詳細はイベントページをご確認ください。
<https://peatix.com/event/4205664>

■ 人間らしい生き方を問い直す～アフリカ熱帯雨林地域の先住民「ピグミー」の暮らしから～
私たち自由学園は、これからの社会を、人間もそれ以外の生き物も

幸せに生きることのできる世界を、どのようにしたらつくることができるか、真剣に考える団体を目指しています。当日は、多くの方々と人本来の生き方について問い直し語り合うことができればと願っています。
○日時：12月14日(土) 14:30～16:00
○参加費：無料
詳細はイベントページをご確認ください。
<https://ikikata2024.peatix.com/>

